

岡崎市の新型コロナウイルス対策 (1/2)

新型コロナウイルス対策が喫緊の課題です。

この間、岡崎市は約440億円の補正予算を組み、水道料金の基本料金の無償化、小中学校の給食費を9月まで無償化、PCR検査機の買い替えなどの医療保健体制の強化を実施してきました。

これから第二波、第三波が予想されるなかではありますが、今後も対策を怠ることなく、かつ、必要なきときは迅速に対応して頂けるよう、わたしの立場から求めていると思います。

さて、コロナ対策のこれからを考えるためにも、この間、岡崎市がどのような方針で対策をしてきたのか？

そこがまず重要になります。

それについて、市長はさきの議会でこのような発言をしていました。

『「当たり前のサービスが、当たり前に受けられない」ことが現状において問題である。具体的には感染症の「相談体制と、PCR検査の不足」である。そのなかで岡崎市としては保健所の人員を増やし「きちんと検査」できる体制を整えてきた。また、岡崎市は感染症指定医療機関を持つ医療、救急体制、保健所を直営で運営する「大きなメリット」を持っており、「岡崎市の保健医療の基礎体力は、非常に強いものがある」。「経済と感染防止という二つのバランスをとりつつ、安心した経済活動を再開するためには…質の高い保健医療体制を構築していくことが重要」である。』

(5月臨時会市長提案説明より著者要約)

と。

まずは、基本的な医療保健体制を整備する。市長の言葉で言えば、「きちんと検査」できる体制を

整え、連携を密にする。それがこの間の岡崎市の方向性だったわけです。

わたしもこの基本方針には賛同するものですが、とすれば、その方向性をチェックするのがわたしたちの重要な仕事のひとつだと思い、以下のような質問を投げかけ、その返答が当局よりありました。

【質問】

5月の議会では市長より本市のメリットとして直営の保健所、消防体制、感染症指定医療機関が協力して対策をしていることをあげ、「岡崎市の持つ保険医療の基礎体力は、非常に強いものがある」と言及されました。その通りであればいいと思うところです。そこで伺います。保健所、消防体制、感染症指定医療機関、それぞれの基礎体力が非常に強いとされる客観的な根拠(保健所については理解するところですが、病院についてはどうか)についてお示しください。特に、同条件の保健医療体制を持つ同

岡崎市の新型コロナウイルス対策 (2/2)

→
規模自治体と比較しての数字、スキームと比較しつつお示しいただきたいと思えます。

【回答】

感染症病床を有する県内公立病院の4病院と比較して、2次医療圏における感染症病床1床あたりの人口は2番目に少なく受け入れやすい体制となっています。また、本市が保健所を設置しているため、保健所と病院は良好な協力関係のもと診療を行うことができました。患者の搬送体制においては、2月中旬に開院前の藤田医科大学岡崎医療センターで新型コロナウイルス感染症患者(クルーズ船乗客乗員)を受け入れた際に、救急隊員を8人3班の計24人及び救急車2台を常駐し対応しましたが、市内の救急隊出場に影響を与えることはありませんでした。

救急隊員には感染症対策に関する教育を十分に行い、感染者を出すことな

く二次感染防止の対策が図れていました。日頃から保健所と連携を行い、感染症患者搬送資機材を使用した訓練等によって情報共有がされており、感染症への対応体制が確立していました。近隣都市と比較しても感染防止資機材の備蓄ができていました。なお、各消防本部の感染患者搬送ユニット保有数は、岡崎市は4セット保有しており、豊田市14セット、衣浦東部広域連合、西尾市及び幸田町は0セットと聞いています。

なかなか、わかりづらいのですが、まとめると、**岡崎市が考える「きちんとした体制」とは、**

- ①保健所、医療、救急体制の直営による指揮系統の統一
- ②さまざまな主体(民間病院、県、国)との密な連携
- ③物資の備蓄

ということが挙げられます。

岡崎市が目指してきた対策は以上のようなものであったということになります。医療保健体制の充実はそのすべての活動の基礎であることを考えれば、大変重要なことです。

このインフラがしっかりしていなければ、何も動かすことはできないでしょう。

その意味でいえば、わたしは岡崎市のいままでの対策を一定程度は評価するものです。

とはいえ、これからは大切です。

この上で、なにをしていかなければならないのか。そこについてもしっかりとみなさんのご意見を聴きながら、当局へ提案していきたいと思えます。

